

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

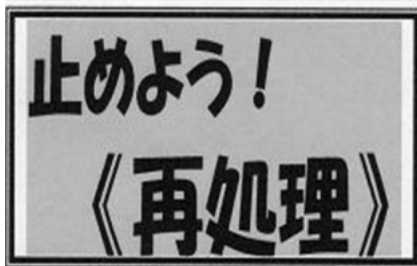
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

3月 30日

第 95号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

子ども達を放射能から守って!

至急 ヨウ素剤を子ども達に配布を! 空間線量率のリアルタイムの公開も

福島原発事故 盛岡の上水からヨウ素131検出

三月十一日東北地方の太平洋の海底で大地震が連続し巨大な津波が襲来、死者、行方不明者二万人以上という甚大な被害をもたらしました。福島第1原発は、非常用電源を失い、炉心や使用済み核燃料プールの冷却不能から、崩壊熱による温度上昇、冷却水蒸発、水位低下、核燃料の露出、水素爆発による建屋破壊、が隣接する4基で同時進行するという、未曾有の事故に発展しています。状況の悪化につれ、高濃度の放射性ガスや汚染水による環境汚染が拡がり始めています。この状態が続けば広範囲に影響を受けることが予想されます。

六ヶ所再処理工場は幸いにして停止中でした。高レベル廃液タンクや使用済み燃料プールは、非常電源が働き無事と伝えられています。女川原発も、緊急停止し、炉心は安定した状態であると伝えられています。

私たち「岩手の会」は福島原発からの放出放射能による空間線量率の増大や、ヨウ素131、セシウムの計測値が上昇という状況の下、岩手県民の被害を最小限とするために、岩手県知事に「要望書」を提出しました。



知事への要請書提出

記者会見



内部ひばくを防ぐために

炉心冷却作業が一進一退する中、岩手にも放射性ガスやチリを帯びた大気が到来し、降雨などにより水道水が汚染される危険が憂慮されます。福島現地周辺の野菜などにセシウムやヨウ素131の数値が急上昇しています。政府は暫定基準値を設けて出荷停止などの措置を発表しました。一四日岩手県は水道水からヨウ素131を検出と発表しました。

岩手県知事に要請書

私たちは二十五日午前、岩手県庁を訪れ、県民を福島原発事故による放射能汚染から守るための緊急要請書」を提出しました。

緊急要請書の内容

岩手を襲った大津波のうねに福島原発の事故によるヨウ素131、セシウムの被害が懸念される。1、至急ヨウ素剤を準備し、特に子ども達に優先的に配布すること。2、空間線量をリアルタイムで情報公開すること。

3、六ヶ所再処理工場の高レベル放射性廃液の厳重管理と対策を求めること。

要請行動には岩手県環境生活部 環境保全課 吉田茂総括課長が応対し、達曾拓也知事に届けると答えました。

ヨウ素剤の

配布態勢はこれからヨウ素剤の配布について、吉田課長は、「ヨウ素131が検出されている以上ヨウ素剤の

重要性は理解している。国から市町村へ直接配付されているかも知れない。県として点検する」と答えました。

私たちは子供達を守るために、県は早急にヨウ素剤の所在を確認し、配付する態勢を作って欲しいと伝えました。

またリアルタイムでの空間線量率の公表については、それは、出来るだけそうしたいが、測定技術や態勢から6時間以上は遅れる」と答えました。

記者会見で訴え
要請書提出後、記者クラブで会見を行い、知事に要請した三点を説明し、質問を受けました。取材にはテレビカメラ二台と、記者十数人が出席しました。

要請書の内容のほかに、市民の側から、記者の方々に、政府発表を伝えるだけでなくさらに国民が疑問に思っていることを掘り下げて取材し、早急に報道して欲しい。例えば、「ヨウ素剤の備蓄配布の態勢」など早急に調査し実態を詳しく伝えて欲しい、という要望がだされました。

原子力安全委員会 10日後にSPEEDIによる試算を発表

内部被ばく 臓器等価線量

内部被ばく臓器等価線量	
日時	2011/03/12 06:00 - 2011/03/24 00:00 の積算値
領域	: 92km X 92km
核種名	= ヨウ素合計
対象年齢	= 1歳児
臓器名	= 甲状腺
【凡例】	
線量等価線 (mSv)	
1= 10000	-----
2= 5000	-----
3= 1000	-----
4= 500	-----
5= 100	-----

(評価)
本試算は、福島第一原子力発電所の事故発生後、連続して一日中屋外で過ごすという保守的な条件を仮定して、甲状腺の被ばく線量を試算した

注目しなければならない

放射線情報データベース

文部科学省環境放射能モニタリング

<http://www.mext.go.jp/>

水道水データ <http://atmc.jp/water/>

環境防災Nネット。

<http://www.bousai.ne.jp/vis/index.php>

風向風速のネット

<http://weather.goo.ne.jp/wave/wind.html>

ドイツ気象庁の放射能飛散予測

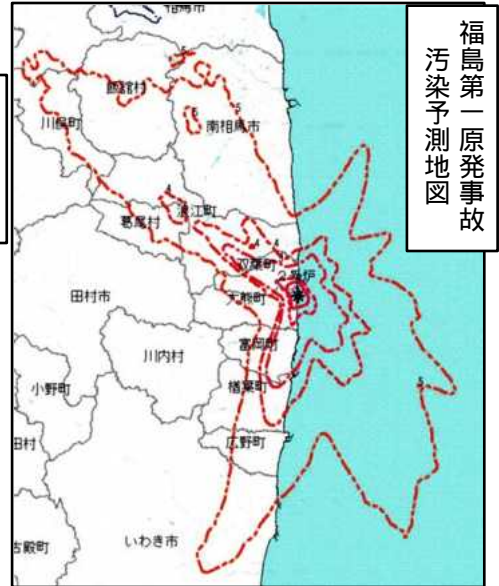
Infomationen des Deutschen Wetterdienstes (DWD)

<http://www.dwd.de/>

(一番下の地図をクリックすると動画が開きます)

乳幼児・子ども、妊婦らの避難、緊急拡大を！
他の原子力施設は大丈夫か？

国の原子力安全委員会（斑目春樹委員長）は三月二日夜記者会見し、原子力発電所の事故発生時に放射性物質が広がる範囲の予想結果を地震後初めて公表しました。放射線性ヨウ素による一定期間の積算放射線量が、屋



福島第一原発事故汚染予測地図

右記事 出典 原子力安全委員会
緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム (SPEEDI) による試算
<http://www.nsc.go.jp/>

内退避圏の三十キロメートルを超えた地点で百ミリシーベルトになるといいます。百ミリシーベルトは原子力安全委員会が健康被害を防ぐために予防薬の安定ヨウ素剤の服用が必要となる目安とした線量。

岩手の会
菅総理大臣宛
緊急要望書を送付

福島原発事故による放射性物質の環境放出について、岩手の会は三月二日、菅直人総理大臣にあてて緊急要望書を送付しました。

要望事項
1 「屋内退避」のままの乳幼児と妊婦を直ちに遠方に避難させるとともに、ヨウ素剤を東北関東地域住民に、特に子ども達に優先配布させること。2、空間線量率をリアルタイムで情報公開すること。また、震災で計測不能になっている宮城県の上水、食品などは国が計測し、ヨウ素、セシウムなどの核種ごとの計測値を公開すること。
3、六ヶ所再処理工場の高レベル放射性廃液の厳重管理と対策を求める。

福島以外の原発核施設
六ヶ所再処理工場
高レベル放射性廃液
二四〇立方メートル、使用済み燃料約三〇〇〇トン貯める六ヶ所再処理工場について原燃ホームは次のように報じています。

(抜粋)
十一日地震発生に伴い再処理工場、高レベル放射性廃棄物センター、ウラン濃縮工場の外部電源喪失、非常用電源により給電。
十三日二時二二分使用済み燃料受け入れ・貯蔵施設を除く再処理工場の保安上の電源を、商業電源に切り替え。
十四日一五時十二分ウラン濃縮工場、非常用電源から商業電源に切り替え。
十五日五時十分までに再処理工場の保安上必要な電源についてすべて商業電源に切り替え。
東北電力のホームでは東通原発
一号機 二月六日以来定期点検で停止中
女川原発
一号機 自動停止
二号機 昨年一月六日より定期点検で停止中
三号機 自動停止